

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和3年度 第2回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局(担当課)		庶務課
開催日時		令和3年12月3日(金) 午後18時40～午後20時
開催場所		豊島区役所 教育委員会室(本庁舎8階)
議 題		(1)「学校の働き方改革の推進」について (2)「コミュニティスクールの導入・教育活動の充実」について
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	委員	美谷島 正義 木村 文香 岩井 由美子(敬称略)
	その他	教育長、教育部長、学務課長、学校施設課長、指導課長、教育センター長、 教育施策推進担当課長
事務局	庶務課長	

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
美谷島委員長	<p>【開会】</p> <p>それでは議事に入りたいと思います。議事の第1「学校の働き方改革の推進」について、樋口参事説明をお願い致します。</p>
樋口庶務課長	<p>【1「学校の働き方改革の推進について」の説明】</p>
美谷島委員長	<p>詳細な説明がありました。</p> <p>それでは委員の方から何か今の「学校の働き方改革の推進」について、質問、ご意見ございますか。</p>
木村委員	<p>2 つほどあります。まず一つ目ですが、基本的にこれは子供さんたちを含めて誰にとっても切実なところですよ。ずっと学生を見ていて最近多い相談が、(身内が学校の先生という子供が非常に多いこともあって)、「公立に行くにあんなふうには働きたくない」と、私学もしくは非常勤で週6埋めて働くという選択をする子供が非常に多い。</p> <p>それは1回会社員になって、それから教員になりたいと戻ってくる子供、社会を知っている子供ほどそういうことを言うので、これはどんどん進めて頂きたいというのと、すごく効果的だと思います。それは感想です。</p> <p>そのうえで、こういったシステムがどんどん出来ていき、きちんと運用されていくことによって、結果的に意識も変わっていかざるを得ないだろうと思っていて、それがすごく大きい部分として作用すると思う。</p> <p>1-11でメッセージ機能付きの電話を、結果的に令和3年度の導入になりましたが、今連絡手段がたくさんある。その中で例えば個人の携帯、メールを「それで連絡とるよ」という先生がいらっしゃると、「やっていない君は不真面目な先生」のような、結果的に意識改革が遅れるところが出てしまうと思う。そういった携帯だったり、メールだったり、個人のは絶対使用しないという研修など、そういった部分での意識改革はどうなっているのかをお聞きしたいと思います。</p>
美谷島委員長	<p>指導課長どうぞ</p>
佐藤指導課長	<p>働き方改革以外のところで、教職員には、いわゆるツイッター、LINE等々について、保護者・児童生徒とグループになってはならないことなどは厳しく、初任者時に、また、豊島区の職員としての異動時に、研修を使ってしっかりと守って頂くお話をしています。</p> <p>また、毎年年度の初めに校長先生にお願いして、自校の教職員にしっかりと話をさせて頂いて、徹底するように伝えているところです。</p> <p>木村委員にご心配して頂くような、差が出る出ない以前にこれだけのいろいろな情報ツールを若手の先生も学生時代からよく使ってきますから、その使い方については丁寧に指導しながらやっているというのは現状です。</p>

	<p>一方で、もう固定電話を持たない先生もたくさんいます。携帯で電話連絡するけれども、ベースは勤務時間内でご家庭に連絡しています。早急に解決するものは、子供の命に関わるようなケガなどについてです。これは時間に関係なく、24 時間対応していかなければいけない。そこについては徹底しながら、また命に関わるような内容については、担任個人が抱えるものではないです。まず管理職に一報を報告したうえで指導課の方に上がってきますので（その時点で指導課長管理になるので）、指導課長から、例えば遅い時間、「今日はここまで報告を上げてください、この先については課長と校長でやりますしょう。」または警察等の連絡については、「校長先生が徹底してやってください。」と指示をだします。管理職扱いのものは、逆に担任の先生一人で抱えることはあってはならないと考えています。</p> <p>さらに、保護者の方たちもいろいろな生活スタイルがある中で、一律に学校が動いている時間の中だけでご協力が得られるものではありません。それにつきましては、学校から繰り返しご家庭にもご協力頂きたいとお声がけしています。</p> <p>教育委員会事務局としましてもこのあたりについては、PTA 連合会と一緒に協力しながら、学校の教育活動の中で少しでもご協力頂けるよう、体制を取って参ります。</p>
木村委員	<p>安心いたしました。</p>
美谷島員長	<p>岩井委員いかがでしょうか。</p>
岩井委員	<p>娘が小学校の頃から、先生方はどんなに早く行っても出勤していらして、夜も遅くまで電気がついていてお体は大丈夫かと思っていたので、様々素早く取り組みをして頂いて、非常に頼もしく伺いました。</p> <p>私の姉が神奈川で公立中学校の教員をしております、若いころは運動が何もできないのにバスケット、バレエ、陸上とか、部活の顧問をずいぶんと頑張っていて、しかも部活で時間を費やした分、職員室に戻っても仕事が溜まっているからこれ持って帰るのよと。</p> <p>また家で授業の研究とか続きをやっているのを見ていたので、本当に先生方は大変だと思っていましたが、近年はサポートのスタッフとか、会計年度任用職員とか、様々な人を増やすというところで、予算的な部分も大きいと思いますが、いろいろな働き方の人を入れて頂き、少し先生方が楽になっている部分があると思う反面、恐らく職員の管理は副校長先生がなさっていると思うと、副校長先生の負担にならないように、そういうシステムをして頂けたらと思いました。</p>
美谷島員長	<p>私の方からも何点が質問があります。私は管理職をやっていたもので、成程すごいと思っております。</p> <p>働き方改革というのは教職員を守るのも大事ですが、すべての働き方についてメスを入れていくということで、いま樋口参事からのご説明は、概ね 3 人の委員とも是非推進して頂きたいのはベースにあると思います。</p> <p>ただ学校の文化というのがあって、ある意味教育をやると無尽蔵に仕事が増えていく。それがかえって先生としては先生冥利に尽きるとか、そういった部分もあると、そこら辺のバランスが非常に難しいと思います。</p> <p>是非新しい時代ですから ICT を活用するとか、ICT が出来たから逆に仕事が増えたということがないようにくれぐれもして頂けると有難い。</p>

一つは教員の場合と区職の場合がありますね。ここが一番ネックになると思いますが、いわゆる都費負担職員と区費負担職員はある面で、休暇の取り方とかいろいろなものが少し違う。

システムは一律にはできない難しさはあると思う。やはり都の服務規定と擦り合わせて、是非指導課長の、(人事担当課長でもあるわけですね)、そのあたりが非常に難しいと思いますが、是非推進して頂きたい。

もう一つ質問になりますが、法律相談、これは素晴らしい発想だと思いますが、このスクールロイヤーの所属は、区固有の弁護士になるのか、それとも学校サイドになるのか。いろいろ揉めていくと結局教育委員会と先生の対立になる可能性がある。したがってどちら側になっているのかということをお聞かせください。

それから、学校徴集金の会計システム、これも非常にいいと思います。人も増やしているということで、いわゆる私費会計のこれによる服務事故はあるわけですから、これが整備されれば減少していくということで、非常にいいことだと思います。

ただ私は今勤めているところで、Amazonで買えばもっと安いものがあります。そのあたりも融通が利くようになるもったいい。こここのところを少しお聞きしたいと思います。

今指導課長に答えて頂いた、生命に関する問題は、ある面で管理職が24時間体制になるのはしょうがない部分はあると思う。そういうことを今お話し頂いた。

スクールロイヤーと徴収の問題 2点について少し質問させて頂きました。

まずは、スクールロイヤーについてお答えさせて頂きます。1名のスクールロイヤーを教育委員会指導課に委嘱をお願いをしています。

そもそもスクールロイヤーの目的は、働き方改革もですが、いじめ問題対策にありますので、その対応をして頂く方に委嘱しております。

さらに、いわゆる学校問題でありますとか、子供の権利に関することにも造詣の深い方、実際に実績のある方に入って頂いております。

令和2年度にスタートしましたが、コロナ禍もあって最初の年は学校から直接問題として上がってくる内容は非常に少なかったと同時に、スクールロイヤー制度が、まだまだ学校の中では「いてくれたらいいけれど、どうやって活用したらいいかわからない」状況でありました。そこで電話相談をロイヤーに受けて頂ける時間を何回かにわたって設定し、ロイヤー制度を校長先生方にご案内しました。

それから最初にお話しさせて頂きましたように、いじめ問題未然防止のためにロイヤーにいじめに関する授業をしてもらうことにも活用していますので、そういうところでも学校に知って頂いたように思います。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き、学校の活動が通常に戻りつつある中で、令和2年度活動できなかったことに関してのリバウンドもあって、正直、子供のトラブルは学校で増えています。

ロイヤーを入れていく案件があるときには、一旦は、窓口として指導課が預かり、長い時間続いて学校と保護者、保護者同士での解決が難しいと判断した案件を、指導課とロイヤーと一緒に解決しています。

佐藤指導課長

	<p>今年度1番重いケースでは、A対Bの関係の中で、まずAにロイヤーが、問題を整理する立場として就いて、学校には指導課が就いて整理をしました。次に、Bに就いて弁護して頂くのではなく、ロイヤーにはAとBの真ん中になってもらい、それぞれに問題となっていることの解釈等々をしてもらい、Bにも「弁護士同士で解決する必要があるか」を判断頂きました。</p> <p>通常、ロイヤーには「中立な立場で、学校の指導も含めて判断してもらいたい」という視点で入ってもらっています。学校が正すべきこと、保護者の方たちから見て、法律の面から、公的な面で正してもらいたいことをジャッジしてもらいながら進めるケースがほとんどです。極めて公正で中立な立場から、教育委員会事務局も判断し示唆してもらおうケースです。</p> <p>学校は、かなりこれで課題解決をしております、当然、ロイヤーに至るまでには時間はかかっていますが、時間をかけても確実に話し合うことで、解決が出来るという実感を得ながら学校と進めております。</p>
<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>学校徴集金についての回答をさせて頂きたいと思います。</p> <p>学校徴集金の公会計化というところで、働き方改革に留まらず、保護者の方の利便性の向上、透明性というような効果もあるということでございますが、現状の私費会計の部分に関しましては、学校徴集金事務の手引きというものを作っております、その中でこういうふうに行っていきましょう、というルールが決められていて、保護者の方にも監査して頂いて透明性の向上を図っているところでございます。</p> <p>一定程度透明性の向上を図り、事故防止の取組みを行っているところですが、必ずしも会計事故が起きないとも限らないので、公会計化をすることによって、透明性を確保していくという目的もでございます。</p> <p>また、Amazonのような経済的に有利なところを選ぶということは、我々としても考えてはいるところですが、公会計となりますと豊島区のルールに則ってというところで、債権者登録している業者をえらぶ必要がございます。そういうようなルールになって参りますので、例えば、Amazonなどが安かったとしても、そこは使えない。公会計になるとどうしてもそういうルールに則するというにはなってくる、と思っております。</p>
<p>美谷島員長</p>	<p>それではほか、宜しいですか。</p>
<p>木村委員</p>	<p>先程2つと申し上げておきながら、もう1個は質問というより荒唐無稽なことを申し上げるかもしれないですが、達成できない目標を立ててはいけないだろうとわかったうえで、今過労死ライン60時間算出の根拠として、残業月80時間というのがベースですが、これを東京都もベースにしていると伺いました。要するにこれを超えると過労死してしまうというラインですね。ですからこれを「子供も先生もハッピーな豊島区」みたいな形で目指されることがあれば、結構どれもうまく回って、「すごく大変な努力をされる校長、副校長先生が実際増えている」とか、「減っても1分だよ」という状態を拝見すると申し上げにくいところもありますが、いっそのことベースを80時間ではないところで計算し、より幸せな先生たちのもとで子供たちが学べることを目指すという事を、教育委員会自体が目指されてもいいのではないかと思います。</p> <p>死なない先生ではなくハッピーな先生にいらして頂きたいというのが感想です。</p>

<p>美谷島委員長</p> <p>金子教育長</p>	<p>是非重く受け止めて頂きたいと思います。</p> <p>先程お話があったように、このままだと採用が非常に大変な問題ではないかと危惧しております。ですので、今の提言は当然のことだと思えます。</p> <p>いかにやりがいがあってもあまりブラックなところは避けるというのは当然の理でして、このままだと教育世界が成り立たなくなってくるのではないかと、持続不可能だと私は思っています。</p> <p>豊島区だけかっこつけて良いのかと思いますが、「うちはハッピータイムがあります」と言いたいところではあります。</p> <p>東京都に倣って書いてはいますが、それ自体は軽く超えてもいいですが、なかなか大変な現実もありまして、意識の問題と実際上のシステムの問題と両面からやらなければいけませんし、先程ご報告したようにシステムの根本が出来ていないので本当のところはどうだというあたりも怪しいところがあります。しっかりとそれを掴みながら令和3年は少し良くなった、令和4年も少し良くなる、では5年後にはここを目指そうということに是非していきたいと思っています。どこかで始めないと大変なことになる、と重く受け止めてさせて頂いております。</p> <p>2 「コミュニティ・スクールの導入・教育活動の充実」について 資料説明 質疑応答</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>今ご説明頂きましたが、委員の皆様ご意見ご質問等、いかがでしょうか。</p> <p>事業分析シートの基礎データのところですが、23区では千代田区、港区、新宿区と書いて11区。私は品川区コミュニティ・スクールの委員長をやっていますが、品川区が抜けています。</p>
<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>品川区は実は国の掲げているコミュニティ・スクールではなくて、品川区独自のコミュニティ・スクールをやっているの、ここには入っていないです。実はこれは国の制度で国の調査をやったものなので、そこから漏れているということです。</p>
<p>木村委員</p>	<p>ものすごく単純な質問かもしれないですが、どうして参画まで至らないのだろうかという素朴な、これだからこそ課題で答えを得られるものでもないと思っている質問です。</p> <p>そもそも私が勝手にイメージする参画は、学校が主体ではなくて委員の方や地域の方が、こんなのやってみないというように引っ張ってくださるというものですが、どうしてだろうとずっと思いながら伺っていました。</p>
<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>すごく重要なことだと思えます。学校運営連絡協議会に参加させていただくと、地域の方々と距離が開いてしまっている感じる場面もある。</p> <p>発言の中では学校のことがよくわからないからなかなかそこまでいけないとか、学校が具体的に何をやっているかが見えないので、なかなか評価することが出来ないといったご意見があります。</p> <p>それは保護者の方も同様ですが、そういったところがあって、なかなか学校運営に参画するまで至っていないところがある。</p> <p>学校側も気を遣っていて、何かお願いするにも学校と地域との関係性が出来ていないとお願いできない。参画まではなかなかいかないところは、豊島区だけではなくて全国的な課題だろうと思っています。そう</p>

<p>美谷島委員長</p>	<p>いったところでコミュニティ・スクールの必要性があると思います。 もう一つはやはり委員に誰になって頂くのか、どのぐらいの期間やって頂くのかというのがあります。そこは距離感が大分近いところで、口も出すけれども手も出すような委員の方を選んでいくということは、校長のマネジメントの重要な部分だと感じています。</p> <p>宜しいでしょうか。 核心につくような箇所をズバッと行ってなかなか難しいですね。勿論ここにある国の方針でいけば、人事に関しても言うことが出来ますが、なかなか言えない。 私自身は今 3 つぐらい頼まれてやっていますが、遠慮します。ズバズバ言うことはなかなかできないし、先程課長からお話があったように小学校と中学校もまた少し温度差がある。小学校は入りやすいという部分があります。中学校になるとなかなか難しいということもあります。 今豊島区のお話を聞いていて、ISS活動が包含するというか、これは昔からあるということで、ここを突破口にしていく。 もうひとつ私は、地域学校協働部会、一般的に言うと地域学校支援本部とか、そういうふうに支援するような形ですが、これを協働というと合体ですから、そういう面では名称もなかなか面白いと感じております。 どうでしょうか、岩井委員。</p>
<p>岩井委員</p>	<p>そうですね。地域の方がなかなか参画に至らないです。 私は 3 年前から仰高小学校と駒込中学校の連絡協議会出席させて頂いて、地域に招いて頂く立場でしたが、そこで感じたのは、地域の方の代表、いわゆる委員として呼ばれていつも来る方たちはだんだん高齢化して、その方たちから聞く話は、「自分たちが保護者だった頃、子供が通っていてお世話になった頃とは、もうずいぶん時代が違ってわからなくなっている」とおっしゃっています。 私もこの 3 月に仰高小学校卒業して出ました。そうするとあのとき先輩方がおっしゃった気持ちが何となくわかるような気がして、少し寂しいですが、仰高小学校は校長先生が「そう言わずにやってください」ということもあるので、いろいろ伺うこともできます。 コロナ禍で令和 2 年ことごとくなくなっていた中に、地蔵通りの持久走というのがあります。令和 2 年はそれでも子供たちにやらせてあげたいと、校庭に地蔵通りのアーチを設えてその中で走らせてくれて、「学校がどんな状況でも地域と離れてないよ」という気持ちを常に出して下さっているの、会議などがあってもほとんど欠席者がいないという事実があります。私も保護者から地域の立場になって何が出来るのかと考えていたところでした。 小学校は先程も入りやすいとおっしゃいましたが、私も ISS の初の認証と再認証のときに P T A として関わりました。P T A と地域も勿論関わりますが、子供たちをとにかく前に出すというふうに来てきたので、周りで見守るという意識でいました。 保護者として P T A 活動でこういうことをやっています、こうやって見守っていますというのが出来ましたが、地域になってしまうと、(校長会のほうとも商店街の方ともよくお話しする機会が外ではありましたが)なかなか今難しいところではあります。 「何かあったときには私たち必ず駆けつけようね」ということはいつも話をしているので、ISS とコミュニティ・スクールが今うまく繋がってきている、また(学校の中で S D G s も絡んですごいことになって</p>

<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>いますが)、柔軟に子供たちをしっかりと先生方が引っ張っていってくださっているの、その取り組みと、活躍する子供たちを見せて頂くことで、周りも「今は近寄れないけど、何かあったら駆けつける気持ちは持つ」という気持ちでいると思います。</p> <p>その念願の持久走は来週やるので、そういうときは駆けつけてしっかり見て、地域と学校は繋がる気持ちは持っていたいと思います。</p> <p>まず、コミュニティ・スクール委員の方々に誰になっていただくかというのが、すごく継続して長い、そういった方々に大変お世話になっている事実があります。学校運営に参画していただくために、そこをどうしていくかというところは、校長先生にも考えてもらっているところはあろうかと思えます。</p> <p>将来の地域の担い手を育成していきたいというのがコミュニティ・スクールだったり、ISSだったり、SDGsの取り組みであると考えております。ISSはセーフコミュニティの中にありますので、将来的にはセーフコミュニティの担い手というところも、子供たちを見守って頂くような形でやれるとすごくいいと思えますし、SDGs達成の担い手にもなってもらいたいところがあって、こういった将来の地域の担い手を育ていきたい、地域を活性化していきたいということも豊島区のコミュニティ・スクールの一つの特徴として設定させていただいているというところでございます。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>学校連絡協議会、コミュニティ・スクールを始める前、学校連絡協議会では、地域の方たちと直接関わる中で、地域の声を拾ってきたということが学校の実態としてありました。地域の声を聞いていくことを活性化していかないと、地域と何を連携したらいいかは見えないだろうということが、コミュニティ・スクールのスタートでした。</p> <p>ISSの長所を活かしながら、ISSをやっていない学校においても、どうやって地域の人たちとのつながりを強めていくかというところを改善したいということがありました。学校連絡協議会を活性化させるためには、まず学校が、どのような連携をするかというビジョンを明確に外に発信していくことが大切だろうということで、ツールの一つとして学校評価を大きく見直しをしました。</p> <p>地域の声、保護者の声はどういう声なのか、子供たちの声はどういう声なのかをしっかりと校長が把握したうえで、発信していくことが大事になります。コミュニティ・スクールを実施するに当たってはPDCAサイクルで改善を実行するためにも、学校評価システム自体もしっかりと構築し直していくことが大切であると思ひ、コミュニティ・スクールのスタート期に、学校運営連絡協議会の在り方、学校評価の見直しを一緒に手掛けたという背景です。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>坂本課長がお話になった「小学校は中に入りやすい、中学校はどこの中学校も入りにくい」というのは、生徒もそうですが部活動もありますね。中学校に部活動がなくなったらある面で学校は変わるだろうというようなことも考えたことがあります。部活動で救われる部分もありますが。</p> <p>そうすると働き方改革の中でも、地域の部活動の指導者も入ってくる。そうなるといわゆる地域としての役に立つような、地域人みたいに中学生がなってくるということですね。</p> <p>防災に関しても何に關してもそうですが、そういうことが構想として私は非常には素晴らしいと思う。cそれは是非何らかの形で中学生が入</p>

<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>っていけるようなシステムというか具体策を作って頂ければ面白いと思います。そういうことをコミュニティ・スクール事業検討委員会というのをやっているのでしょうか。</p> <p>もう少し柔軟に地域を活かしていくことが大事ではないかと思いました。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>この検討委員会、令和3年にガイドラインを作りました。このガイドラインはこれで完成というわけではなくて、やってみて様々課題が出てくると思うので、随時ブラッシュアップしていきたいと考えています。これで絶対やりなさいというような示し方もしていませんし、学校の特色において、さまざまな形で地域と協働していくと思います。</p> <p>その地域にどういう人材がいるのかということに依じて、学校のやり方も変わってくると思いますので、そういったところは臨機応変に校長の考え方、地域のコミュニティ・スクールの中での協議のしかたによって変わってくるのではないかというふうに思っております。</p>
<p>金子教育長</p>	<p>多くの東京都の学校でコミュニティ・スクールとかどんどんやっていると、最終的にいわゆる小中一貫〇〇学園とか、そういうような構想もありますか。</p> <p>私はあると思っています。急ぐ必要はないですが、ブームみたいに考える必要はないと思いますが、ちゃんと内容があって地域で小中一貫、あるいは幼稚園とか保育園まで入った感じのイメージがちゃんと出来て、「もうここまで来たらカリキュラムもこういうのを付け加えていこう」とか、「この地域の特色でいったら、ここを出た子はこういう子だよね」ということになってほしいということが、進んでいくと自然と出てくると思います。</p> <p>その結果として、一貫校ありきでやってもうまくいかないとは思うので、ハードだけ一貫になっているところはありますが、中身はまだやっています。ハードは逆にいうと別でも、中身として進めていきたいと思っていることは幾つかあります。</p> <p>特に今出ていたような中で、学校名でいうと全体ですが、豊島区として力を入れてISS、安心安全推進です。これは大体賛成して頂ける。それからSDGsを始めました。</p> <p>さっきいろいろな例が出ていましたが、そういうところから入っていくと、単に町会の方に並んで頂くだけでなく期待感を私は持っています。具体的な支援策、大人の方々が何をしてくれるのだろうと。例えば畑をやってくれますとか、木を植えてくれます、そうすると先生はそれを勉強として取り上げて教えてくれればいいと思います。</p> <p>あるいは見方を変えると、長崎に獅子舞という無形文化財がありますが、これは江戸時代からずっと続いてきています。大人たちが続けようとして続けてきています。しかし担い手がいなくなってきた。途絶えてしまいそうになって10年ぐらい前に小学校に頼むことにしました。長崎小学校で授業としても取り入れてもらって、あるいは出来る大人たちが教えに来ます。完全に先生のような、外部教師です。踊り方を教え、歴史を教えというのをある学年でやっています。ぐるっと回って今その卒業生が教える側になりました。素晴らしいことだと思います。</p> <p>ですからそういうことではないかと思っております。さっきの働き方改革のこともあるので、これ以上教員が頑張るって地域に何かしなくては</p>

